











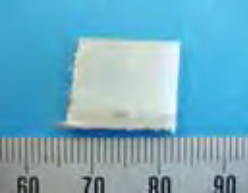
## 平成19年度 食品等の苦情品検査(4～9月)

平成19年度上半期に、区福祉保健センターに届けられた食品等に関する苦情品の中で、原因究明のために当所へ搬入された検体は、60件、97検体でした。苦情の内容は様々ですが、理化学検査を中心に行った主な検体の検査結果は次のとおりです。



品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
ツナコーン スパゲティ 中の異物	食べたところ、コーンが硬かった。 	外観 デジタルマイクروسコーブ リグニン反応 結果	大きさ10×6×5mm、重さ0.17g。一端が黄色の固まりで、白色透明の皮状のもの。 植物性の構造を有し、透明部分はトウモロコシの種子の皮と同様であった。 黄色の硬い部分は赤紫色に変わった。 トウモロコシの種子の一部で芯に付着した硬い部分と推定された。
チーズかまぼこ	黒い小さなごみのようなものが入っていた。 	外観 光学透過顕微鏡 デジタルマイクروسコーブ 結果	かまぼこの表面の所々に小さな黒い斑点(大きさ1mm以下)を認める。 黒色部分は動物の黒い色素組織で、対照品も同様であった。 かまぼこから分離した斑点は、黒い不定形な模様を示していた。対照品(魚肉練り製品)から分離した斑点も同様であった。 斑点は魚の黒い色素組織と推定された。
たらこに付着した異物	毛髪のようなものが、塩蔵たらこに付着していた。 	外観 デジタルマイクروسコーブ 光学透過顕微鏡 ニンヒドリン反応 結果	太さ0.2～0.6mm、長さ30mm及び42mm。白色、一部が黒褐色の毛髪様の物質。 縦に黒い筋のある透明で筒状の形態をしていた。 毛の特徴である毛表皮紋理(キューティクル)は認めなかった。 赤紫色に呈色した。 たらこに付着していたことにより、たらこの血管と推定された。
さといも煮物	冷凍さといもを購入後、調理し食べたところ、1個だけ、強い異臭(灯油臭)がした。	官能試験 GC/MS 結果	石油臭を認める。 灯油:不検出 軽油:240ppm 軽油による汚染と推定された。
合挽肉中の異物	調理をしていたら白い異物が出てきた。 	外観 デジタルマイクروسコーブ 赤外分光分析 結果	大きさ8×4mm、4×3mm、3×2mm、2×1mm。白い薄片で、小さな穴を認める。 六角形の中心に穴のあいた形状の集合体であった。片面に透明な繊維の付着を認めた。参考品の脱水シートに形状が類似していた。 ポリエチレンと同様の赤外吸収スペクトルを認めた。 脱水シートの破片と推定された。

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
ショウロンポウ(未加熱)	頬が痛みさらに首から頭にかけて痛み、手足がだるく上半身しびれを感じて、その後嘔吐した。	HPLC 結果 参考	グルタミン酸Na:1.8%。 グルタミン酸ナトリウムの過剰使用と推定された。 一人前に10gのグルタミン酸ナトリウムを使用していた。
天津むき甘栗(むき栗)	カビの様なものが表面の一部に見られた。 	外観 デジタルマイクروسコープ 走査型電子顕微鏡  真菌検査 結果	表面に5mm大の灰色部分を認めた。 表面に付着した微細な粉状の物質を認めた。 灰色部分は針状の結晶状の物質で覆われていた。 陰性。 灰色部分はカビではなく、針状の結晶状の物質であるが、微少のため検査はできなかった。
かつおぶし中の異物	硬い固まりが入っていた。何か？ 	外観  燃焼性  赤外分光分析  結果	長さ2~7mm、太さ0.5mm、重さ全量8.5mg。6本の淡黄色で円柱状の物質を認めた。 炎で燃やすと黒く炭化し、白色の硬い灰分が残った。 骨と同様な赤外吸収スペクトルを認めた。灰化後のものは、骨を灰化したものと同様のスペクトルを認めた。 魚の骨と推定された。
焼きそば中の異物	黒い塊が入っていた。 	外観  デジタルマイクروسコープ  燃焼性  溶解性 結果	大きさ4×2×1mm、重さ2.4mg。黒色で、不定形な固まりを認めた。 表面は凹凸があり、片面の一部に平らな面がみられた。全体に黒色でもろく、切断面に多数の穴を認めた。 炎で加熱すると赤く燃えて、白い灰分がわずかに残った。 水、エタノール、エーテルに不溶。水に浮く。 そばの具材の炭化物と推定された。
即席めん中の異物	黒いかたまりが入っていた。 	外観  燃焼性  光学透過顕微鏡  その他 赤外分光分析  結果	大きさ1×3mm~3×6mm、重さ1.3~14mg。茶褐色の小片9個。 炎で加熱すると、タマネギのてんぷらのような臭いがした。 水にふやかし、薄い膜を生物顕微鏡で観察すると、タマネギと同様な細胞を認めた。 ジエチルエーテルで油状物質が抽出された。 油状物質は植物油と同様の赤外吸収スペクトルを認めた。 タマネギを油で揚げたものと推定された。




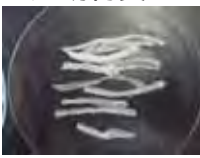
品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
肉じゃが中の異物	硬い固まりが入っていた。 	外観 光学透過顕微鏡 リグニン反応結果	大きさ10×25mm、4×19mm、重さ各0.44、0.06g。淡黄色で一部が橙色であり、硬い木質部を認めた。 切片を観察すると、細胞、導管、部分的に赤色色素を認めた。切片はニンジンの芯の部分の切片と類似していた。 陽性。 異物は植物組織であり、ニンジンの芯の木質化したものと推定された。
ハンバーグマトソース中の異物	硬い固まりが入っていた。 	外観 光学透過顕微鏡 リグニン反応結果	長さ14～18mm、太さ1mm、重さ全量4.1、5.4、7.0mg。淡黄色で、木片様の三片で、一部が裂けてほつれたような状態であった。 切片をメチレンブルーで染色し、観察すると、維管束などの植物組織を認めた。 陽性。 植物の破片と推定された。
ホイコーロー中の細い棒状の異物	毛が入っていた。 	外観 光学透過顕微鏡 結果	長さ1.7mm、太さ0.14mm。茶褐色の毛様の物質。片側に毛根を認め、先端はちぎれた状態であり、表面は細かな横行波状の小皮紋理を認めた。断面は長楕円形であり、髄は認めない。 人の毛と推定される。
ホイコーロー中の白い固形状の異物	白くて硬い固まりが入っていた。 	外観 デジタルマイクロスコーブ 赤外分光分析 結果	大きさ1.5×4×4mm、重さ25mg。白色の硬い固まり。 表面は一方向に走るスジを多数認めた。側面は淡黄褐色の部分の部分を認めた。 骨と同様の赤外吸収スペクトルを認めた。灰化後のものは、骨を灰化したものと同様のスペクトルを認めた。 骨の破片と推定された。
クリーム＆プリン(生洋菓子)中の異物	硬いものが入っていた。 	外観 デジタルマイクロスコーブ 光学透過顕微鏡 結果	大きさ3×2mm、楕円形で、一部割れたような形をした、灰白色の固まり。 縦に走るスジがみられた。 大きさや形状がゴマに類似していた。 皮の部分をメチレンブルーで染色し観察すると、ゴマの皮の部分を染色したものと類似していた。 ゴマの皮と推定された。
胡麻煎餅中の異物	硬い固まりが入っていた。 	外観 ヨウ素デンプン反応 赤外分光分析 結果	大きさ3×7×2mm、重さ44mg。白色透明の固まり。お湯に浸すと、柔らかな固まりとなった。 陽性。 デンプンと同様の赤外吸収スペクトルを認めた。 デンプンの固まりが乾燥したものと推定された。


品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
厚揚げのカレー炒め中の異物	プラスチック片が入っていた。 	外観 デジタルマイクロスコープ 赤外分光分析結果	大きさ8×4cm、厚さ15μm、重さ52mg。黄色の合成樹脂のフィルムでカレー臭を認めた。 シートの一端にラップの切り口に似たぎざぎざを認めた。 ポリ塩化ビニルと同様の吸収スペクトルを認めた。 ポリ塩化ビニルのフィルム片と推定された。
キシリクリスタルブルーのど飴	白い硬い固まりが入っていた。 	外観 赤外分光分析結果	大きさ6×4×2.5mm、重さ61mg。白色の硬い固まり。 飴の中間層の白色部分に類似した吸収スペクトルを認めた。 飴の白色部分の破片と推定された。
カレーうどん中のガラス様異物	ガラス様の破片が入っていた。 	外観 デジタルマイクロスコープ 赤外分光分析結果	大きさ3×4.5×3.5mm、重さ63mg。淡青色のガラス様の固まり。 表面の一部にスリガラスや湾曲に削るなどの加工の跡を認める。 ガラスと同様の吸収スペクトルを認めた。 一部に加工を施したガラスの破片と推定された。
海藻サラダ中の異物	プラスチック片が入っていた。 	外観 赤外分光分析結果	大きさ100×12mm、重さ43mg。無色透明でテープ状のもので、短方向に折り重なりを認めた。片面に弱い粘着性があり、部分的に微細な付着物がみられた。 ポリプロピレンと同様な吸収スペクトルを認めた。 材質がポリプロピレンである接着用のテープの破片と推定された。
ラーメン中の異物	プラスチック片が入っていた。 	外観 デジタルマイクロスコープ 赤外分光分析結果	底辺50mm、高さ25mmの三角形を2つ並べた形状の半透明の薄いフィルム。厚さ7～8μm。 対照品の角の切れ込み部分と同様な形状をしていた。 ポリエチレンと同様な吸収スペクトルを認めた。 ポリエチレンのフィルムの破片と推定された。
味噌汁中の異物	プラスチック片が入っていた。 	外観 赤外分光分析結果	底面25mm、高さ15mm、重さ10mg。三角形をした透明で、二重になったフィルム。中央に熱で圧着した跡を認めた。 ポリエチレンと同様なスペクトルを認めた。 ポリエチレンフィルムの破片と推定された。
食パン中の異物	プラスチック片が入っていた。 	外観 デジタルマイクロスコープ 赤外分光分析結果	大きさ13mm×14mm、厚さ2mm。白色のプラスチック片で、片面に茶色い付着物が見られた。 表面のキズは片面は横に、反対面は斜めに走っていた。 ポリエチレンと同様なスペクトルを認めた。 表面のキズと大きさより対照品(製造所で使用されていたパッキン)の一部と推定された。



品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
味噌汁中の異物	金属片が入っていた。 	外観 デジタルマイクروسコーブ マイクロアナライザー 性状 結果	長さ43mm、幅0.44mm、厚さ0.020mm、重さ5.1mg。 銀色のテープ状の物質。 縦に走るスジがみられた。 鉄とクロムの元素を認めた。 磁性を有する。 鉄とクロムからなるステンレス製で、形態的に金属タワシの一部と推定された。
ミルクブレッド中の異物	虫みたいなものが入っていた。 	外観 デジタルマイクروسコーブ 光学透過顕微鏡 赤外分光分析 結果	大きさ10×6×1.5mm、淡褐色で楕円形した硬い固まり。 フィルム状で、大きさの異なる多数の泡状の空洞からなる。周辺部に1mm以下の縁がみられた。底面は平らで、上面が盛り上がっていた。 フィルム状のものは、乳を焦がしたものと類似した構造であった。 タンパク質に類似した吸収スペクトルを認めた。当所で用意した乳を焦がしたものとスペクトルは類似していた。 乳成分が焦げたものと推定された。
釜揚げしらす中の異物	毛髪様のものが入っていた。 	外観 デジタルマイクروسコーブ 走査型電子顕微鏡 赤外分光分析 結果	長さ41mm、太さ0.11mm、重さ0.2mg。黒色の毛様の物質。 表面全体に白色の付着物を認めた。 扁平で部分的に亀裂を認めた。毛の表皮紋理は認めない。 セルロースに類似した赤外吸収スペクトルを認めた。 植物性の繊維と推定された。
かんぴょう巻に付着した異物	海苔の部分に白い細かな粉の様なものが付着していた。 	外観 溶解性 デジタルマイクروسコーブ 光学透過顕微鏡 走査型電子顕微鏡 真菌検査 結果	海苔の表面の一部に白色の小さな固まりを認めた。 水に不溶。 0.1mm以下の白色の粒子を多数認めた。 円形及び楕円形の微細な粒子を多数認めた。 微細な粒子が集まった丸い固まりを多数認めた。 酵母類を検出。 形態から酵母類と推定された。
ワンタンスープ中の異物	硬い固まりが入っていた。 	外観 溶解性 原子吸光分析 塩化物 結果	大きさ1×0.5×1mm～4×3×3mm、重さ2～81mg。7個の無色透明の正方晶系の結晶。 水に可溶。 Na: 39.2% (食塩換算100%) 水溶液は硝酸銀で白濁した。 食塩の結晶と推定された。

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
チキンロール中の異物(毛)	毛が入っていた。 	外観 光学透過顕微鏡 走査型電子顕微鏡 結果	長さ51mm、太さ0.07mm。白色で、全体に波状の細い毛様のもの。 先端部は針状であり、毛根部は切れて認められなかった。毛の髄質は太く、ネコの毛に類似していた。 表面に小皮紋理を認めた。小皮紋理はうろこ状でネコの毛に類似していた。 ネコの毛と推定された。
メロンパン中の異物	黒い細かなものが付いていた。 	外観 デジタルマイクロスコープ リグニン反応 赤外分光分析 結果	パンの中に3×4mm程度の大きさで、微細な黒褐色の粒が点在する固まりを認めた。 黒褐色の部分は丸い微細な固まりで、カビの菌糸は認めない。長さ1～6mm、太さ0.05～0.07mmの多数の透明な繊維を認めた。 繊維は陽性。 繊維は植物繊維と同様なスペクトルを認めた。 植物繊維とデンプン等の炭化物の集まりと推定された。
グレープフルーツ(ルビー)	色が濃く、色が付けられているのでは	デジタルマイクロスコープ 着色料 結果	つぶつぶの皮の部分に色素細胞と思われる赤い斑点を多数認めた。 不検出。 グレープフルーツ本来の色と推定された。
キムチ中の異物	金属の破片が入っていた。 	外観 溶解性 その他 デジタルマイクロスコープ マイクロアナライザー 結果	長さ24mm、太さ0.9mm、重さ41.4mg。銀白色の柔らかな針金。 濃塩酸に発泡して溶けた。 磁性を認めない。 表面はザラついており、一部に腐食がみられた。 アルミニウムの元素が認められた。 アルミニウムの針金の破片と推定された。
イカフライ	ゴム様の異物が入っていた。 	外観 デジタルマイクロスコープ 燃焼性 ニンヒドリン反応 赤外分光分析 結果	大きさ40×5mm、重さ31mg。硬い淡黄色の薄片。 水に浸すと膨潤し、透明な繊維が見られた。 炎で加熱するとイカを焼いた臭いを発した。 陽性。 タンパク質と同様な吸収スペクトルを認めた。 イカの断片と推定された。
あんぱん中の異物	木片状の異物が入っていた。 	外観 デジタルマイクロスコープ 赤外分光分析 リグニン反応 結果	大きさ19×2mm、7×2mm、各重さ70mg、14mg。 2本の茶色の木片状のもので一部が白くなっていた。 表面に、餡や糖などの付着が認められ、水で洗浄すると繊維状の組織が認められた。 水で洗浄した異物は木片の吸収スペクトルに類似していた。 陽性。 木片に餡や糖が付着したものと推定された。

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
ひき肉	ひき肉の一部が黒くなっていた。 	外観 デジタルマイクroskop 溶解性 鉄の定性反応 結果	1～10mm大の灰黒色部分を多数認めた。 肉の一部が灰黒色になっていた。 塩酸で灰黒色部分は溶けて淡黄色に変わった。 チオシアン酸アンモニウム液を塩酸で溶けた液に滴下すると赤変した。鉄：陽性。 肉に鉄分が付着したものと推定された。
キャンディー	食後30分でジンマシンを発症し、嘔吐した。 キャンディーの中身を確認したい。 病院のアレルギー検査でピーナッツが陽性であった。 	外観 官能検査 光学透過顕微鏡 走査電子顕微鏡 結果	キャンディーの中身を水に浸すと、細かな粉末のほか、大きさ1mm弱の粒を若干認めた。 キャンディーを割ったところ、ピーナッツバターの臭いを認めた。 1mm大の粒にヨウ素液を滴下して観察したところ、当所で用意したピーナッツと同様なデンプン粒等を認めた。 1mm大の粒は多穴質の構造を示し、当所で用意したピーナッツと同様であった。 キャンディーの内容物はピーナッツを含む製品と推定された。
にんにくの酢漬 け中の異物	漬物の容器の底に異物を認めた。 	外観 その他 赤外分光分析 結果	大きさ1.5～3.0mm、重さ3.3～22mg。褐色透明で多数の球形の固まりを認めた。 次亜塩素酸で脱色し、乾燥させると透明で淡い青色の固まりとなった。 シリカゲルと同様な吸収スペクトルを認めた。 乾燥剤のシリカゲルと推定された。
トマトジュース 中の異物	トマトジュースで酒を割って飲んでいたらコップの底に麺様のものが入っていた。 	外観 ヨウ素デンプン反応 光学透過顕微鏡 結果	長さ30mm×太さ1mm、2本の白色の麺様のもの。陽性。 小麦粉と同様なデンプン粒を認めた。また、デンプン粒は加熱による変形を認めた。 小麦粉を原料とする麺(そうめん)の茹でられたものの一部と推定された。
海藻サラダ中 の透明物質	水でもどして食べたところ硬くて、食感がおかしい。プラスチックではないかと思われた。 	外観 溶解性 赤外分光分析 結果	海藻サラダ中に長さ20～60mm×幅4mmの無色透明のフィルム様の物質を多数認めた。 熱湯に完全に溶け、冷やすと固まりゼリー状になった。 寒天と同様な吸収スペクトルを認めた。 透明物質は寒天と推定された。
ぶり照焼	食べると舌先がしびれた。下痢もした。	ヒスタミン 結果	5.9g/kg(590mg%) ヒスタミンによるアレルギー様食中毒と推定された。
あじ丸干	食後30分で嘔吐、舌を刺すような刺激があった。 	ヒスタミン 結果	2.2g/kg(220mg%) 食べ残し 1.1g/kg(110mg%) 同じ製品 ヒスタミンによるアレルギー様食中毒と推定された。

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
清涼飲料水 ボトル(容器)	容器内側に緑のものがついている。	外観 溶解性 結果	ボトルの表面に緑色の斑点を数個認める。 緑色の斑点はアセトンを浸み込ませた綿棒で溶けた。 ボトル表面に塗装等が付着したと推定された。
アイスクリーム に付着した異物	小さな異物が付着していた。 	外観 溶解性 燃焼性 光学透過顕微鏡 マイクロアナライザー 結果	大きさ3.8×1.3mm、2×1mmの2個。アイスクリームの表面に白色で一部が黒い固まりが付着していた。固まりは柔らかく、金属針で押すと崩れた。 水、エタノール、アセトン等に不溶。 炎で加熱しても、燃えない。 一部をつぶして顕微鏡で観察すると微細な粒子の集まりであった。 ケイ素、マグネシウム、アルミニウム、チタンの元素を認めた。 ケイ素、マグネシウム、アルミニウム、チタンなどからなる無機物質(建材等)の破片と推定された。

【 食品添加物担当 】